

施設外就労における「引率」と「コーチング」の技術

安全管理を超えて：利用者の成長を加速させる3つの支援プロセス



対象：支援員 / サービス管理責任者 / 管理者

NotebookLM

施設外就労は「現場経験」を通じた最強の成長機会。



現状 (Current)

安全確認だけの「付き添い」になりがち。
→ 準備不足はトラブルの元。

理想 (Ideal)

安全を守りつつ、自立を促す「コーチング」。
→ 継続参加と自信形成へ。

成功の鍵は、事前・現場・事後の「一貫した設計」にある。

NotebookLM

準備不足が招く「失敗体験」の連鎖



1. 安全管理への偏り
引率者が安全確認に追われ、学習支援まで手が回らない.



2. 認識のズレ
企業側の期待と本人の認識が共有されていない.



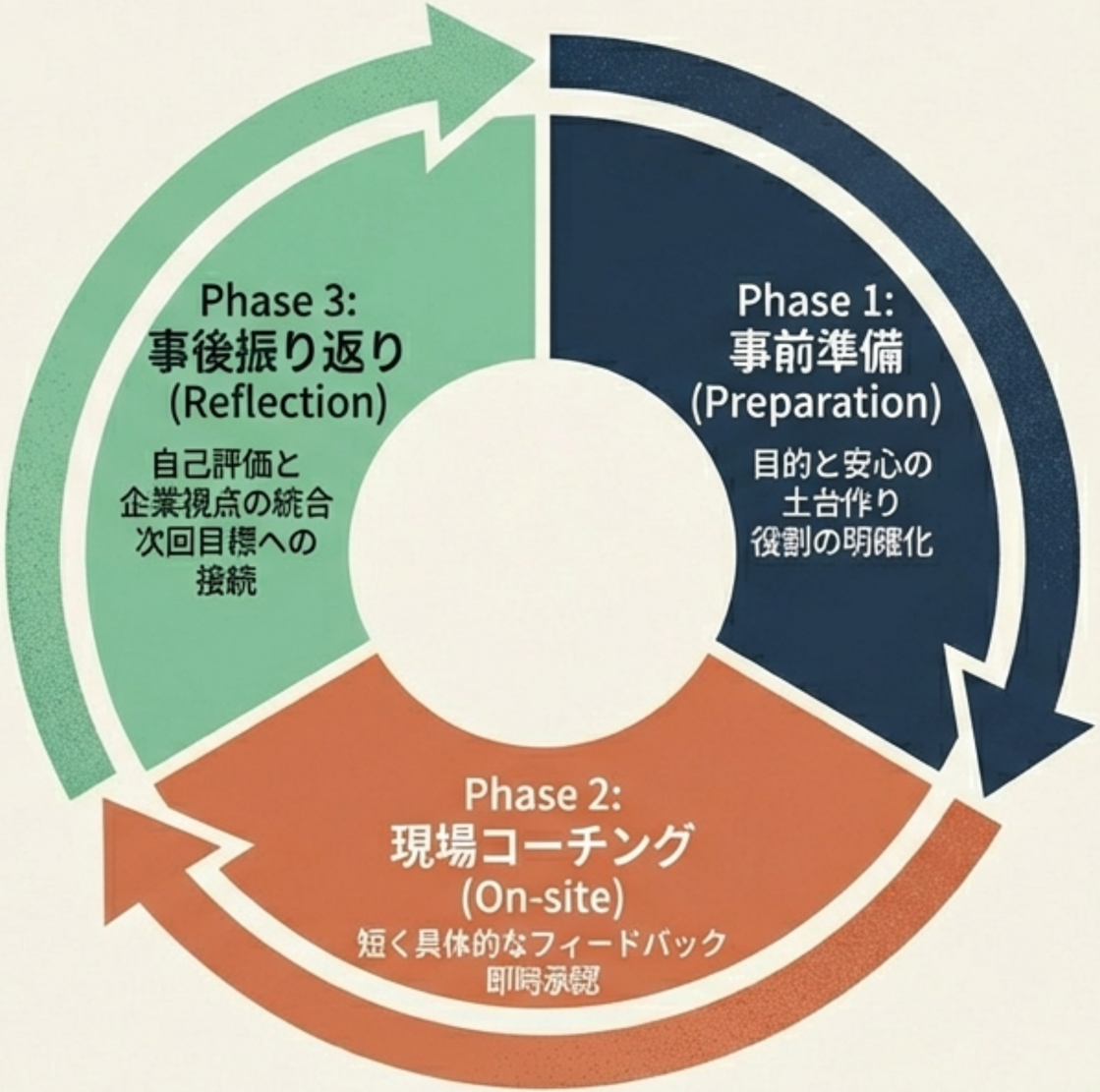
3. 振り返りの欠如
何ができたか整理できず、失敗の記憶だけが残る.

Consequence

利用者の自信喪失・不適応

NotebookLM

支援を「点」ではなく「線」にする3ステップ



NotebookLM

Step 1: 事前準備の標準化

「何をするか」だけでなく「困ったらどうするか」を合意する

- [x] **作業内容・役割分担**
  （自分のタスクは何か？）
- [x] **緊急時対応**
  （トラブル時の連絡フローは？）
- [x] **本人目標設定**
  （今日は何を頑張る日か？）

The 5-Minute Rule

出発前5分ブリーフィング

「今日の目標」「SOSの出し方」「報告タイミング」を再確認し、不安を消す。

NotebookLM

Step 2: 現場での具体的コーチング

心理的安全性を確保し、成功体験を即座に定着させる

指示 (Instruction)



短く、具体的に伝える
(Short & Specific)

承認 (Feedback)



成功行動はその場ですぐ褒める
(Instant Feedback)

修正 (Correction)

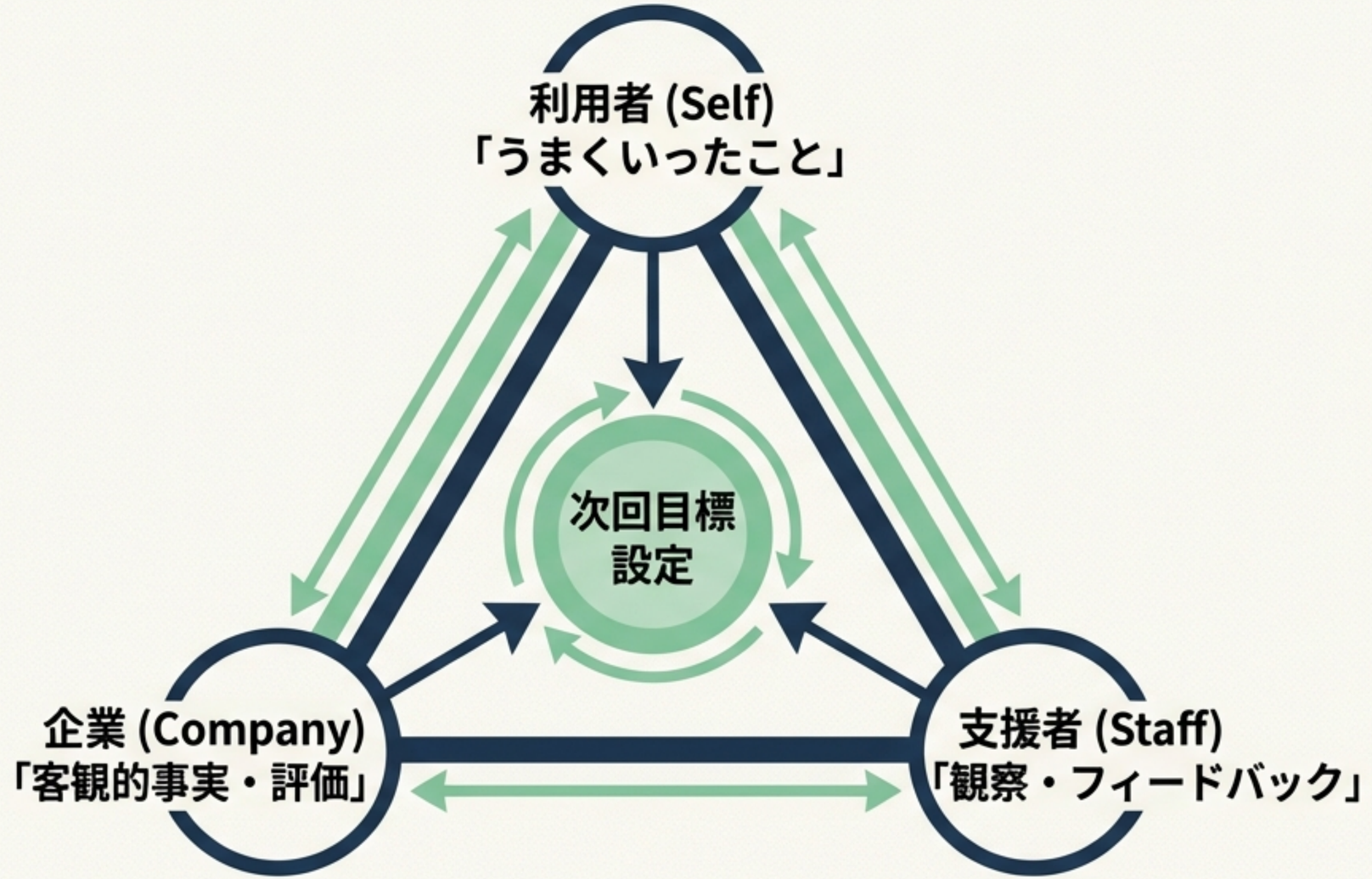


公開処刑しない。短く合図を送り、休憩時に個別指導する
(Private Correction)

※ 現場は「通常環境」とは異なるため、負荷調整と安心感が最優先。

NotebookLM

Step 3: 多角的な振り返りと統合



1. **本人自己評価**：再現性を高めるため、ポジティブな点から聞く。
2. **企業フィードバック**：企業視点を客観的に共有。
3. **次回目標設定**：三者の視点を統合して決定。

NotebookLM

Case Study: S事業所の導入事例



Before

状況：現場での緊張からミスが続き、自己否定が強かった。

Action: 準備不足での参加 → ミス → 自信喪失



After

介入：出発前ブリーフィング導入＋帰所後15分の振り返りを固定化。

結果：現場適応力が向上。自己評価が安定し、企業評価も改善。



Takeaway: 事前・現場・事後の支援を一本化できたことが成功要因。

NotebookLM

運用品質を守るチェックリスト

- [x] 事前確認: 作業・役割・目標は共有されたか？
- [x] 緊急対応: トラブル時のルールは明確か？
- [x] 記録: 現場でのコーチング記録は残っているか？
- [x] 振り返り: 帰所後の振り返りは実施されたか？
- [x] 接続: 次回の目標設定につながっているか？

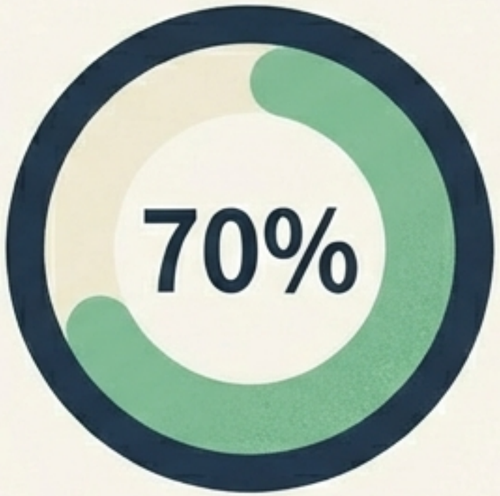
NotebookLM

運用の「見える化」指標（KPI）



参加継続率
(Retention)

目標：80%以上
意味：安心感の指標



目標達成率
(Achievement)

目標：70%以上
意味：自己効力感の指標



企業評価改善率
(Evaluation)

目標：前月比改善
意味：就労準備性の指標

NotebookLM

よくある失敗パターンと回避策



× 事前説明不足
（不安増大）



→○ 丁寧な準備と
ブリーフィングを徹底する



× 人前での叱責
（自尊心低下）



→○ 修正は短く、
必ず「個別」に行う



× 振り返りの省略
（成長停止）



→○ 帰所後の時間を
固定枠として確保する

NotebookLM

まとめ：仕組み化が「自信」を作る



施設外就労は、適切切な引率とコーチングがあれば、利用者の就労準備性を飛躍的に高め機会となる。

よくある質問

Q: スタッフの適正人数は？

A: 安全確保と個別支援が両立できる配置にする。

Q: 企業連携の最重要点は？

A: 「期待役割」と「連絡手順」の事前合意。

Q: 本人の不安が強い時は？

A: 短時間参加や段階導入で「成功体験」を積む。

NotebookLM